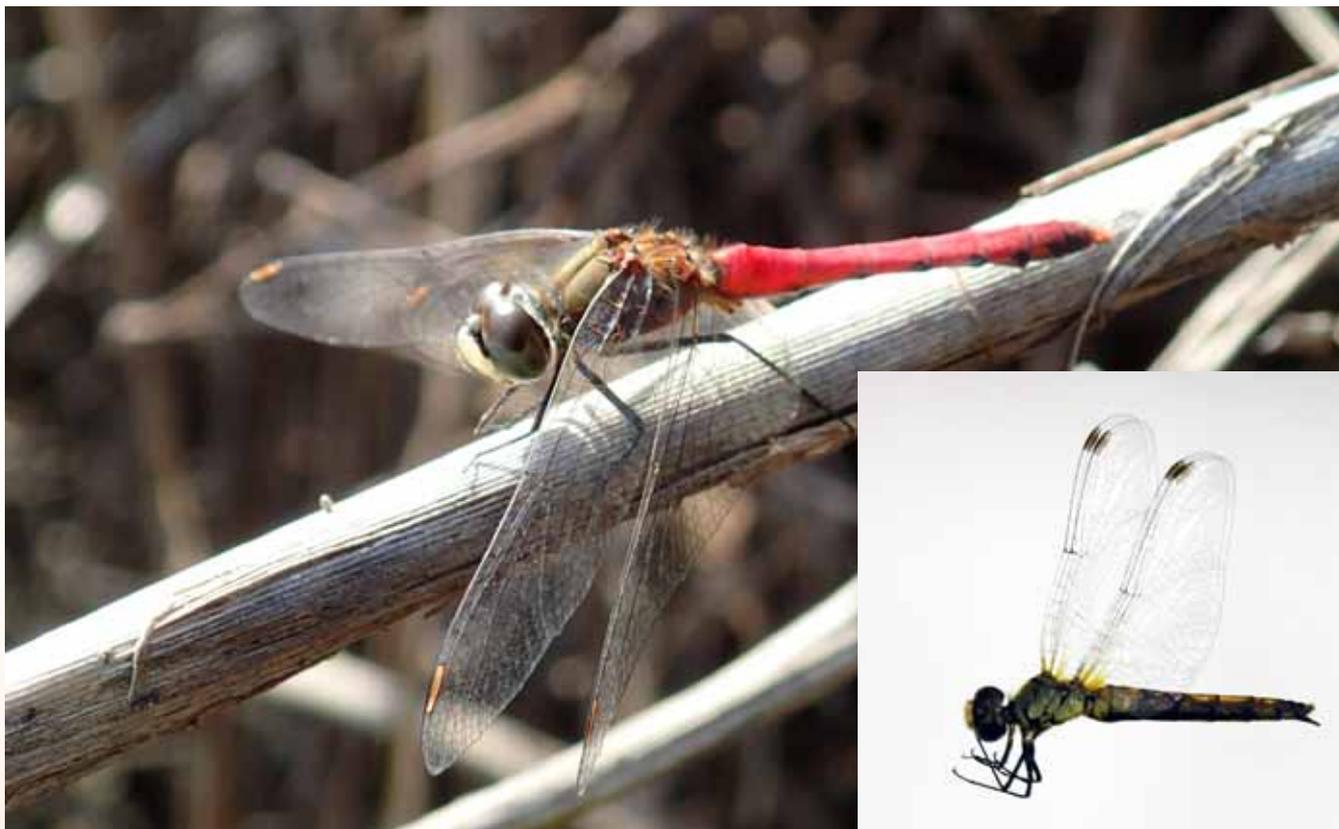


オナガアカネ

福井順治



↑オナガアカネ♂ 浜松市遠州浜

↑オナガアカネ♀ ロシア沿海州

猛暑やゲリラ豪雨など、最近の気象変動には激しさが極端になった気がします。そんな中で今年（2015年）の秋、ひょっとしたら爆弾低気圧による北方からの強風が、日本海を越えて運んだのではないかと思われるアカトンボの一種、オナガアカネ *Sympetrum cordulegaster* (Selys, 1883) が静岡県で確認されました。

オナガアカネは、朝鮮半島、極東ロシアなどに分布し、国内では秋に北西の季節風に乗って飛来すると考えられています。北方からの飛来種は日本海側で見つかることが多く、本種も山陰や北陸などではほぼ毎年見られるのですが、太平洋側ではめったに見つからず、静岡県では1997年の浜松市での初記録以来18年ぶりの発見になりました。この年も秋に強風の日が続いたことを覚えています。今年は日本海側ではかなりの個体数が見られたという情報もあり、その一部が太平洋側にも飛来したと考えられ、浜松市だけでなく静岡市、御前崎市、沼津市などでも記録されました。

本種は白い顔面が特徴の小型のアカトンボで、オスは成熟すると腹部が赤化します。定着しているアカトンボの中ではヒメアカネやマイコアカネに似ていますが、それらよりはわずかに大きく、成熟したオスの腹部は鮮紅色で、その色はこれらの2種とは微妙に色調が違う気がします。オスの腹部の第7節の下縁が下方に張り出しているのが特徴とされるものの、野外でそれを識別点にできるものではありません。名前の由来はメスの産卵弁が長く、腹端を越えて後方へ突出していることから来ています（写真右下）。国内ではメスが見られることは少ないので配偶行動の観察例もほとんどなく、産卵時にはこの長い産卵弁を湿地の泥に突き刺して行うとのこと。大量に飛来した年には、翌年羽化した記録もありますが、国内では定着が確認されていません。

遠方からの飛来種とはいえ見つかる場所は限られていて、それは平地の抽水植物が繁茂している湿地となります。観察された大部分のオスは、こうした湿地に静止して縄張りを占有していたものです（写真中央）。故郷の一つと考えられるロシアの沿海州で本種を見た環境も、広大な原野に湿原が点在するところでした。